

六月十四日、パラモンキングが開催された。今年も日本全国から集まった選手が、スイム、バイク、ランの過酷なコースに挑戦した。毎年福江島全体を使って行われるこの行事は、地元五島の人々の協力によって成り立っており、沿道には選手を応援する人々の姿が多く見られる。その中で、五高生は全てを終えて選手が戻ってくる福江港周辺でボランティア活動を行った。

ボランティアに参加する生徒は、事前大会関係者から当日の動きの説明を受けた。当日は基本的に所属する部単位で、それぞれの係りに分かれて活動を行った。走り終えた選手に水や大会

島を挙げて選手をサポート パラモンキングボランティア



笑顔で選手を応援する生徒

記念のタオルを手渡したり、ゴールテープを用意したり、選手が預けていた荷物を返却したりと、様々な仕事があった。生徒一人一人がそれぞれの職務を全うし、パラモンキングは無事終了した。今回五島に来た選手の人たちに、また五島で競技をしたと思うてもらうためにも、こうしたボランティア活動は重要である。「また五島でトライアスロンをしたい。」と思うてもらえるような大会になったのではないだろうか。(槻)



ゴールテープをきる選手



例文暗唱大会「天下一武道会」

二〇一五年度五高祭。テーマは「360」。今年度の五高祭を通して何を感ず、どんな自分に出会うことができたのだろうか。

九月十二日土曜日。メイアリーナでプレオープンセレモニーが行われた。里中君の迫力のある太鼓で五高祭は幕を開けた。五島各地域の伝統芸能や部活動生によるハイスクールミュージカル、実行委員によるオリジナル曲「Around Me」のライブ。クラス発表では、クオリティーの高い映像や演劇が披露された。何も無いゼロからのスタート。この日のために五高生全員が全力を尽くしてきた。あの自信に満ち溢れた瞳や笑顔の裏にはたくさんさんのドラマがあったはずだ。目を閉じて思い出してほしい。あんなにも素晴らしい

自分を見つめ直し 光り輝く未来へ ～五高祭2015～

十三日(日)五高祭二日目の一般公開。副委員長二人の開会宣言によりオープニングセレモニーが始まった。一年生の心に響く歌声、実行委員による演劇が披露された。各クラスの空間演出や展示教室は華やかで、校舎全体に活気が溢れた。屋外ス

きたのではないだろうか。

ステージでもイントロ・ドンやカラオケ大会、クイズ大会が行われ、昼にはPTAや三年生により美味しいカレーやうどんも販売された。見渡す限り笑顔で溢れていた。メモリアルホールでは、先生方によるライブもあり、会場は歓声と歓喜に包まれた。

何も無いところから何かを作ることは簡単なことではない。しかし誰かに楽しんでもらうために、または誰かにメッセージを届けるために、五高生が一生懸命になった姿はすべての人の目に焼き付いたことだろう。誰にとっても『新たな自分になるカギを見つけた』ための『最高の一日だった』に違いない。五高祭2015、この思い出を胸に刻み続け、私たちの光り輝く未来へ。(真)



実行委員企画「イントロ・ドン」

五高新聞

第150号
発行：五島高校新聞部

新聞部が全力で ユニセフ募金 してみた

五高新聞に、あの「全力で〇〇してみた」シリーズが帰ってきた。

今回、新聞部が挑戦したのは「ユニセフ募金」だ。我々の中には生まれてから今まで、当たり前のよう生活をし、教育を受けてきた人もいるだろう。しかし、これらは当たり前のことではなく、とても幸せなことなのだ。

発展途上国の現状
現在、発展途上国に住む、約六〇万人の子どもたちが五歳になる前に命を失っている。それだけでなく、約五七〇〇万人の子



計六日間それぞれの場所で活動を行った

どもたちが小学校にも行けずにいるのだ。読み書きができないために、収入のある仕事に就くことができず、貧しい生活からなかなか抜け出せない人もいる。この事実を知った我々は、自分たちにも何かできることはないかと皆で議論を繰り返した。一つの結論に辿り着いた。それが、ユニセフ募金だった。

百円で命を救う
ユニセフ募金では、たった七九円で、子ども二人分の鉛筆とノートを支援することができ。また、子どもを守るためのワクチンや、免疫力を高めた病気にかけにくいするカプセルも支援できる。この事実を伝えることで、街の人たちが



小さい子どもも協力してくれた

自分でも役に立てると思ってもらえるのではないかと。我々は、一人でも多くの命を救うべく、ユニセフ募金に踏み切った。

募金活動の実施
六月四日、ユニセフから送られてきた募金箱を抱え、募金活動を始めた。始める前は、募金活動は簡単だろうという甘い気持ちもあつたが、いざ街頭に立つと緊張感が高まり「募金にご協力をお願いします」という第一声を出すまでに時間がかかった。しかし、勇気をかき出し、声で呼びかけ



五高祭2015プレオープン、大迫力の太鼓からのスタート。

身周りに目を向ける
私たちは、身近なことに目を向け手を差し伸べてあげるだけで、誰かを助けることができるのかもしれない。今一度、身の周りの人たちに目を向けて、自分ができることは何かを考えてみてはどうだろうか。(叶・柚)

募金活動に取り組む部員
すると、我々の「子どもたちを救いたい」という気持ちから22,518円と、多くの方に募金にご協力いただいた。最終的には、計六日間の募金活動で、137,866円を集めることが出来た。活動をしていく中で、ご協力してくださった方々への感謝の気持ちで胸がいっぱいになった。